

2023年3月期第2四半期 決算説明会

東証プライム 4249

森六ホールディングス株式会社

2022年11月18日

1. 森六グループの現在	P. 2
2. 2022年3月期 第2四半期の総括	P. 5
3. 2023年3月期 第2四半期の取組み	P. 10
4. 2023年3月期 第2四半期決算	P. 17
5. 2023年3月期 見通し	P. 27
6. 参考資料	P. 30



1. 森六グループの現在

来年で創業360年を迎える日本最古参の**化学専門企業**

森六ホールディングス株式会社

森六テクノロジー株式会社

樹脂加工製品事業
自動車部品の「**メーカー**」機能

内装部品



外装部品



事業内容

強み

- ホンダグループとの強固なネットワーク
- 世界4極での研究開発体制

森六ケミカルズ株式会社

ケミカル事業
化学分野における「**商社**」機能

生活材料



ファインケミカル



コーティング



電気・電子



自動車材料



樹脂加工製品



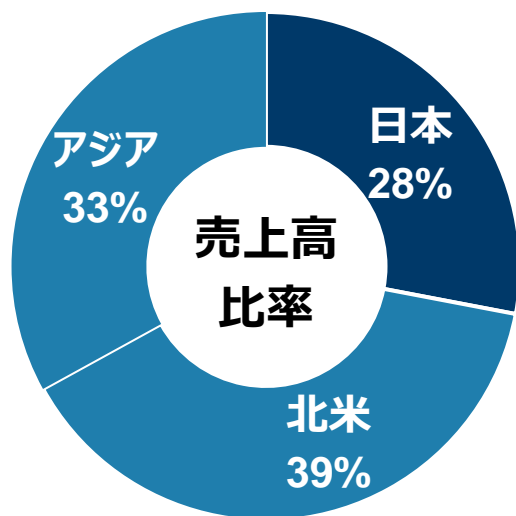
事業内容

強み

- 「ものづくり」と「化学商社の知見」でグローバル展開
- 樹脂加工製品事業とのシナジー

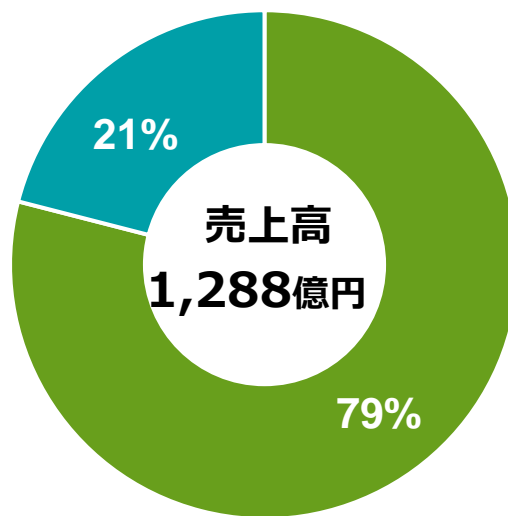
13か国、61拠点のグローバルビジネス

2022年3月期 売上高		営業利益
所在地別	事業セグメント別	



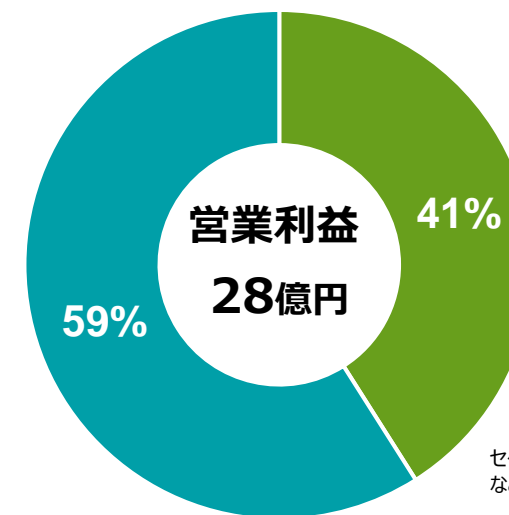
海外 7 : 国内 3

バランスの取れた地域ポートフォリオ



樹脂加工 8 : ケミカル 2

樹脂加工とケミカルの事業ポートフォリオ



セグメント間取引消去
などの調整額は含まず

樹脂加工 4 : ケミカル 6



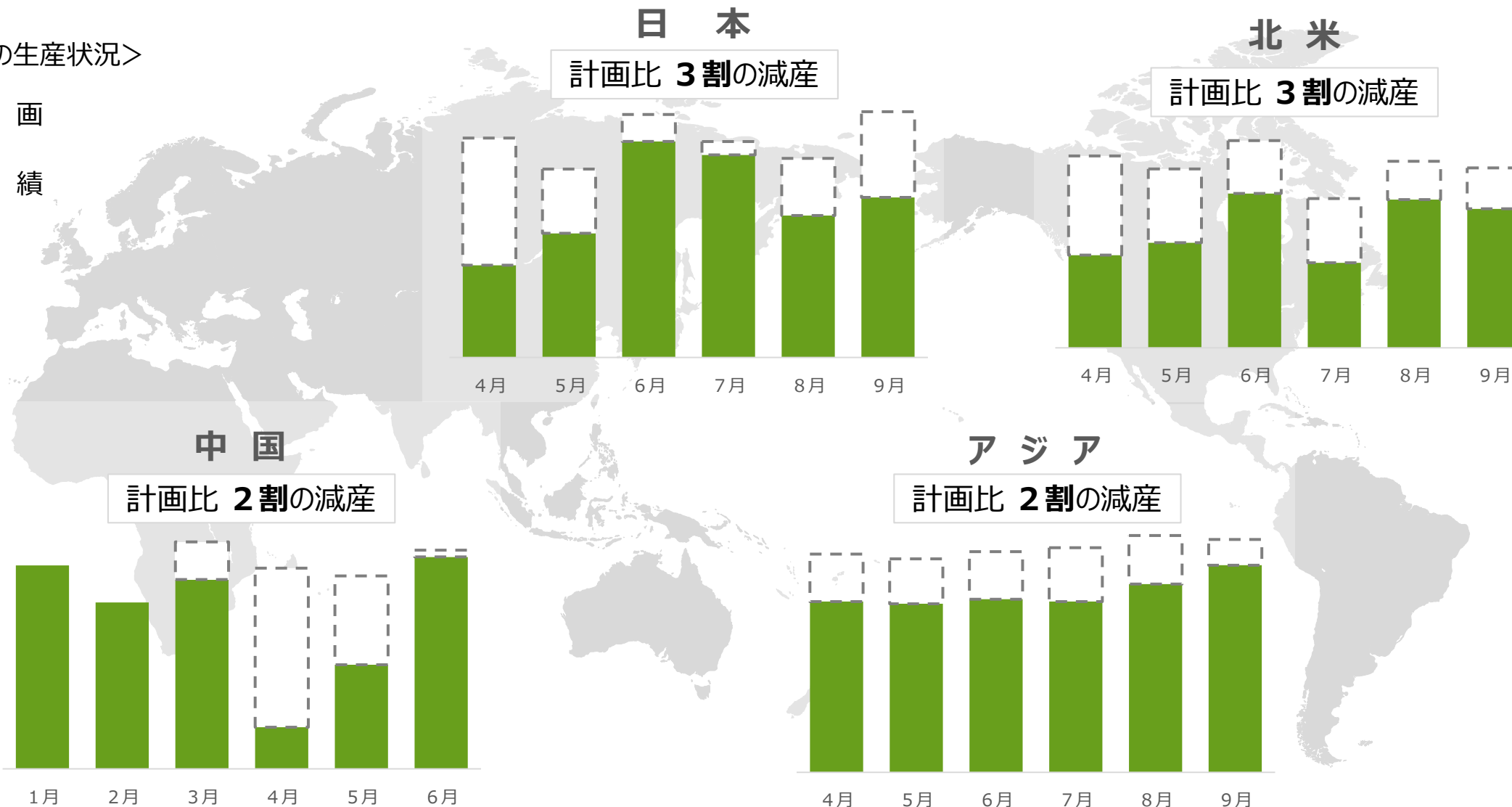
2. 2023年3月期 第2四半期の総括

2023年3月期第2四半期 事業環境（対計画比）

12月決算の中国において、上海ロックダウンの影響が顕在化
その他の地域でも、半導体不足の影響による主要顧客の生産調整が継続

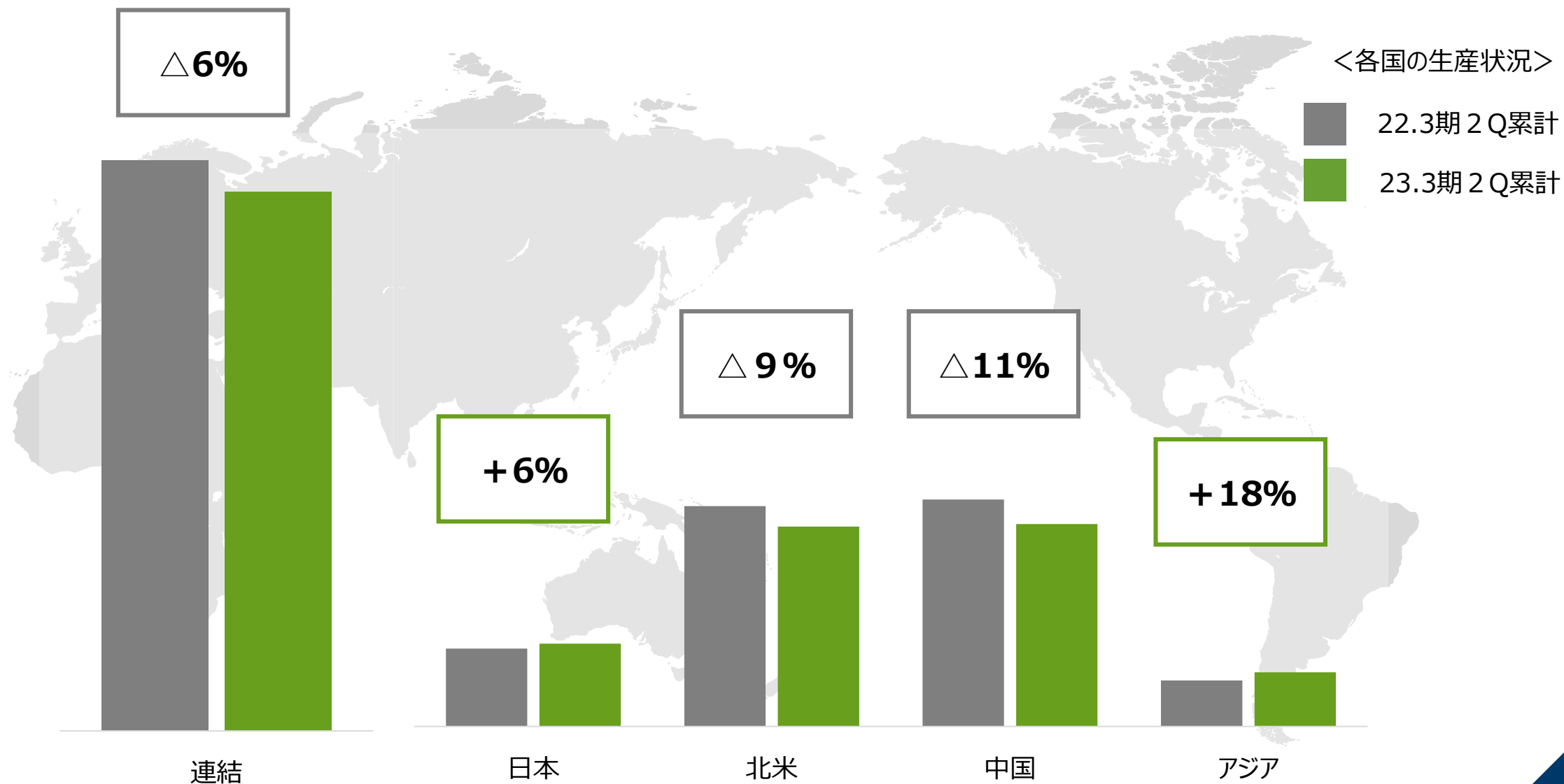
<各国の生産状況>

□ 計 画
■ 実 績



2023年3月期第2四半期 事業環境（対前期比）

前期比では、日本、アジアで台数増。一方、北米と中国での台数は減少



2023年3月期第2四半期の総括

売上高 : 為替の影響により、前期比増収

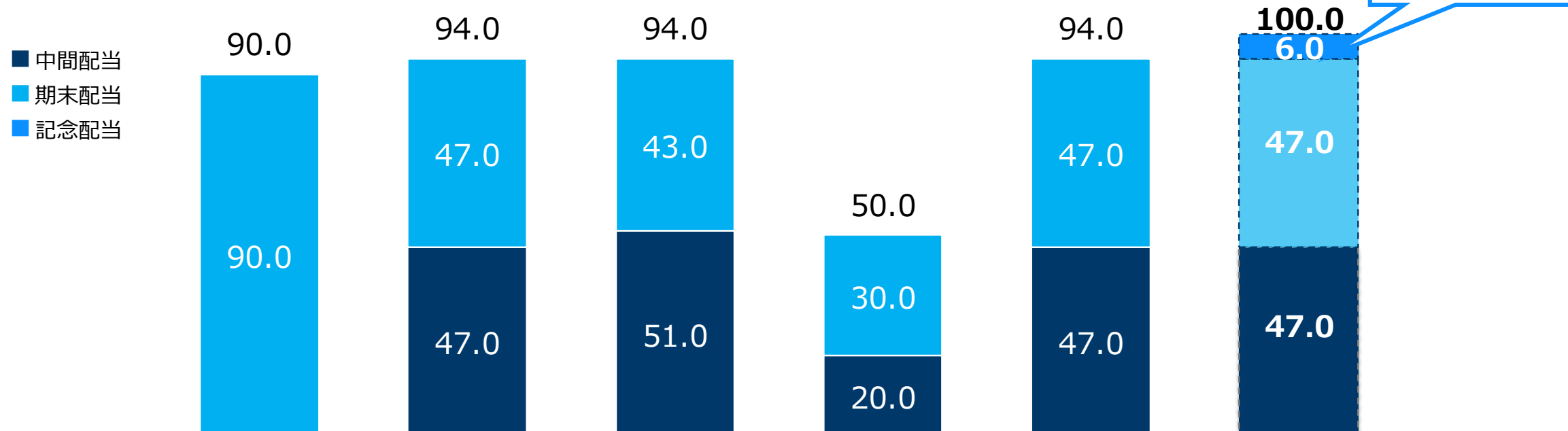
営業利益 : ケミカル事業は堅調に推移するも、樹脂加工製品事業の収益が大きく悪化

当期利益 : 前期に投資有価証券売却益を計上した反動もあり、前期比減益

	22.3期 2Q	23.3期 2Q		増減額	増減率	(億円)	
		23.3期 通期見通し	進捗率				
売上高	629	693	63	10.2%	1,410	49.2%	
営業利益又は営業損失	9	△ 0.4	△ 9	-	30	-	
経常利益	11	3	△ 8	△71.4%	30	11.0%	
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は四半期純損失	24	△ 6	△ 30	-	16	-	
為替 (USDドル)	109.8円	134.1円	24.3	22.1%	125.0円	-	
(中国元)	16.7円	19.0円	2.3	13.8%	18.4円	-	
ナフサ価格 (円/kl)	50,600円	83,750円	33,150	65.5%			

2023年3月期 株主還元

中間配当47.00円、年間配当予想100円から変更なし
 自己株取得は、総額20億円の取得を完了したほか、あらたに10億円の取得と消却について決議



	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期予想
一株配当	90.0円	94.0円	94.0円	50.0円	94.0円	100.0円
配当性向	20.2%	25.4%	44.2%	220.5%	36.3%	98.1%



3. 2023年3月期 第2四半期の取組み

第13次中計 基本方針（2023年3月期～2025年3月期）

CREATE THE NEW VALUE

STEP1

強みのある事業の強化・成長分野の絞り込み



基本 戦略

【Ⅰ】安定した財務基盤の確立・収益力の強化

- リカバリー生産への追随
- 高効率生産の推進

【Ⅱ】研究開発の強化による価値創造と、 2030年に向けた種まき

- 技術領域の拡張、独自技術の保有
- サプライチェーンを通じた強みの創出

【Ⅲ】サステナビリティ活動の推進による 経営のレジリエンス向上

- 企業価値の向上
- コーポレート・ガバナンス機能の強化
- 多様な人材の確保と育成

研究開発の強化による価値創造と、2030年に向けた種まき

樹脂加工製品事業

【今期の取組み】

人とくるまのテクノロジー展2022への出展

目的

- ①自動車業界、とくにOEMやサプライヤーにおけるプレゼンス向上
- ②新規顧客の開拓

成果

- ・リアルブース、オンラインとも、来場者目標を達成
- ・OEM、部品メーカー、異業種含め、多数の問い合わせあり
- ・受注に繋げるべく、フォローアップ活動を継続中



多層成形やホットスタンプを用いた最新グリル（左） やカーボンナノチューブ（右）などに注目が集まった

今後の展開

- ・提案型開発にむけた研究開発の強化
- ・展示会のみならず、様々な手法での製品・技術のPR



研究開発の強化による価値創造と、2030年に向けた種まき

ケミカル事業

【今期の取組み】

ベトナム事務所の新設

概要

2023年1月、ベトナム・ホーチミンに事務所を開設予定

目的

輸出

- ・米油、機能性食品添加物ビジネスの拡大

輸入

- ・食品用フィルム、工業用フィルムの海外展開
- ・樹脂コンパウンドをはじめとする既存事業の拡大

今後の展開

ベトナムの経済成長を活かして、**ASEAN地域のビジネス基盤をさらに強化する**



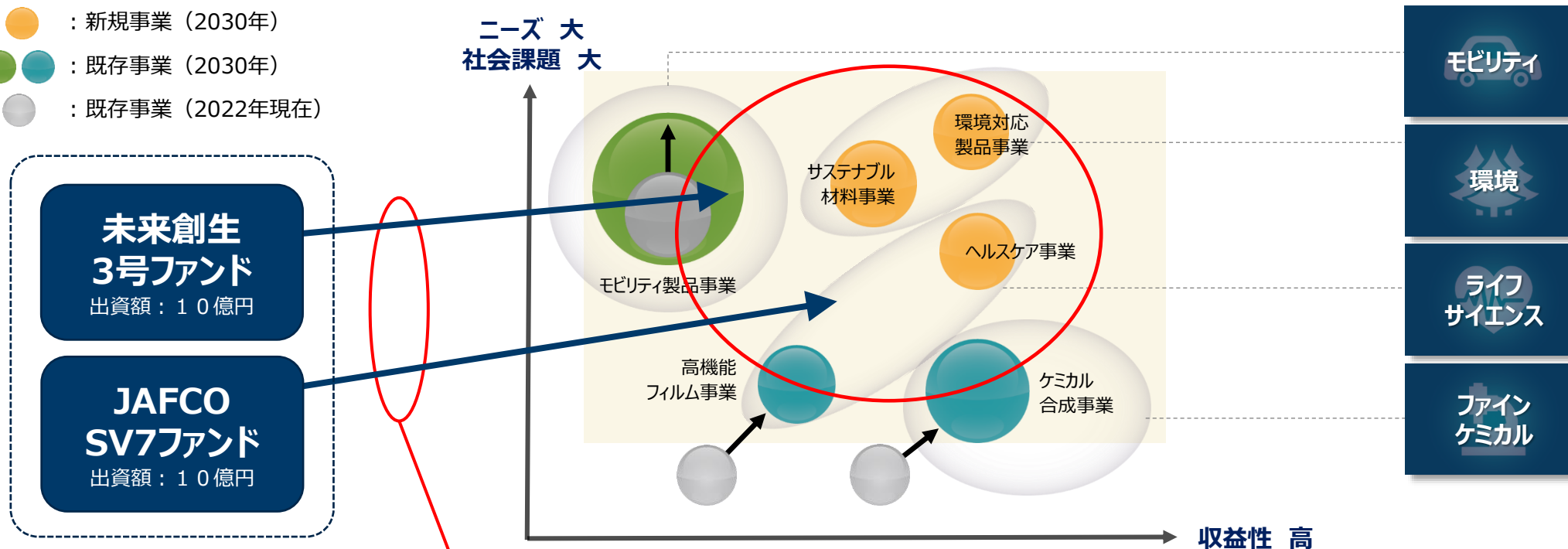
研究開発の強化による価値創造と、2030年に向けた種まき

新規事業の創出

【今期の取組み】

新規事業創出の基盤強化に向けて、ベンチャーファンドへ総額20億円を出資

- : 新規事業 (2030年)
- : 既存事業 (2030年)
- : 既存事業 (2022年現在)



**未来創生
3号ファンド**
出資額：10億円

**JAFCO
SV7ファンド**
出資額：10億円

新規ベンチャーファンドへ
出資

ベンチャー企業との繋がりや交流機会を創出

ベンチャーファンドのリーサーチ力とマッチング活用により新規事業の提携・投資対象となるベンチャー企業を発掘する

サステナビリティ活動の推進による経営のレジリエンス向上

気候変動対応

【今期の取組み】

気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）への賛同を表明

ガバナンス

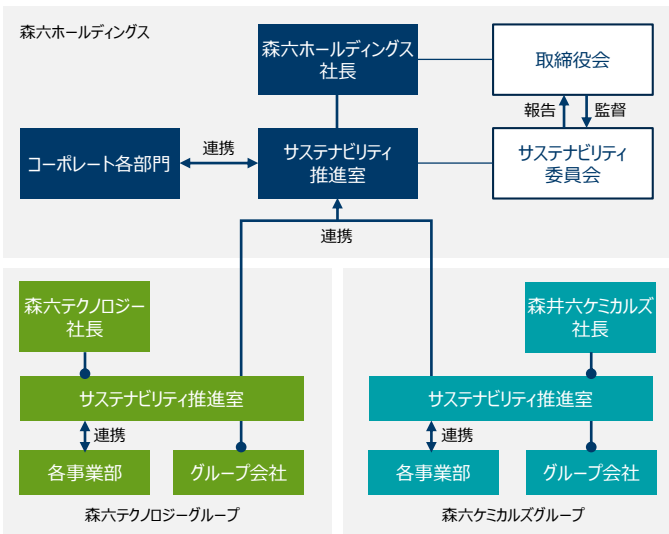
グループ主要3社でサステナビリティ推進体制を整備

リスク管理

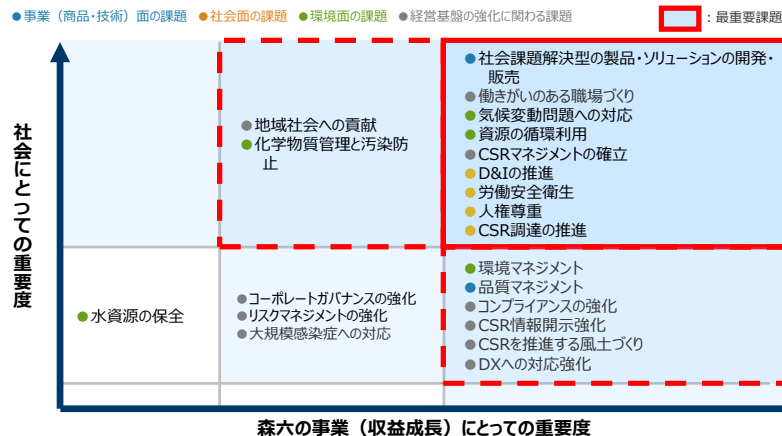
気候変動問題を最重要課題と特定

指標と目標

GHG排出量削減目標や、再生可能エネルギー導入比率目標を設定



森六グループのサステナビリティ重要課題



13次中計主要サステナビリティKPI (2022~2024年度)

GHG排出量 削減率

2019年度の排出量に比べて、森六グループ全体で

30% ↓ 削減

再生可能エネルギー 導入比率

全消費電力に占める再エネ由来の電力量の割合を、森六グループ全体で

35%へ

戦略

4℃・1.5~2℃シナリオにおける戦略の立案、財務への影響の分析を完了
WEBサイトにて公開予定

TCFDの枠組みに沿った情報開示を、さらに充実させていく

サステナビリティ活動の推進による経営のレジリエンス向上

CSR調達

【今期の取組み】

CSR調達ガイドラインの整備（2023年4月運用開始）

概要

サプライチェーン全体を持続可能なものとし、企業の社会的責任（CSR）を果たすため、**CSR調達ガイドラインの整備に取り組んでおり、2023年4月運用開始を予定**

サプライチェーン全体でのCSR活動

負の影響の予防・回避・軽減 (リスクマネジメント)

- ▶ 環境・社会課題によるビジネスへの影響の最小化
- ▶ ステークホルダーへの説明責任
- ▶ 企業ブランドの保護
- ▶ 資本・金融へのアクセス確保

など

新たな価値創造 (競争優位性向上)

- ▶ サプライヤーとの戦略的関係構築
- ▶ サステナブルな商品開発による新市場アクセス、顧客ロイヤリティ向上

など

当社への 影響

持続可能なサプライチェーンの構築



4. 2023年3月期第2四半期決算

2023年3月期第2四半期 連結業績

売上高 : 為替影響を除くと614億円となり、実質減収

営業利益 : 北米を中心とした、急激な生産変動による稼働ロスとインフレ影響により、収益が悪化

当期利益 : 為替差益があったもの、法人税増の影響により、減益

(億円)

	22.3期 2Q	23.3期	増減額	増減率
		2Q		
売上高	629	693	63	10.2%
営業利益又は営業損失	9	△ 0.4	△ 9	-
営業利益率	1.5%	△0.1%	-	-
経常利益	11	3	△ 8	△71.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は四半期純損失	24	△ 6	△ 30	-
EPS (円)	146.01円	△38.99円	△ 185.00	-
為替 (USDドル)	109.8円	134.1円	24.3	22.1%
(中国元)	16.7円	19.0円	2.3	13.8%
ナフサ価格 (円/kl)	50,600円	83,750円	33,150	65.5%

2023年3月期第2四半期 セグメント別業績

樹脂加工製品事業は、為替影響により増収も、アジア以外が苦戦して減益
ケミカル事業は、ナフサ高騰に伴う販売価格の上昇と為替の影響により、増収増益

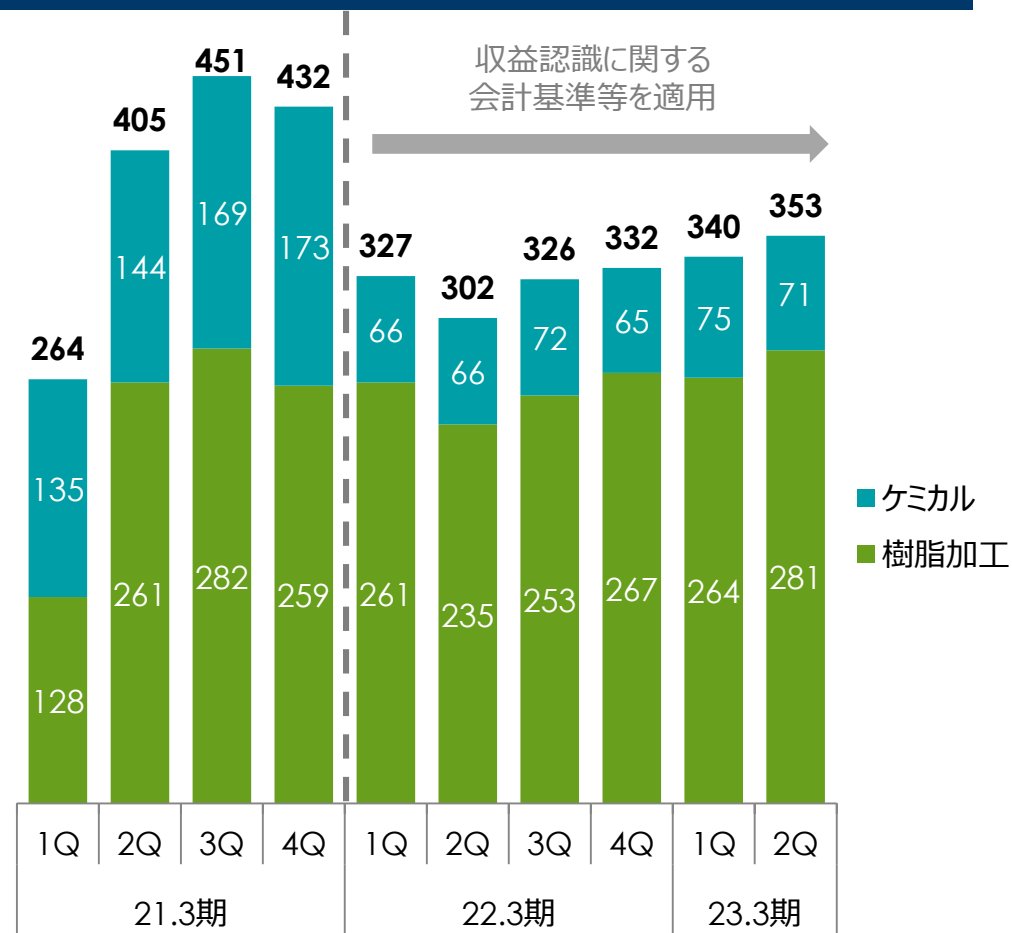
(億円)

	22.3期 2Q	23.3期		
		2Q	増減額	増減率
売上高	629	693	63	10.2%
樹脂加工製品事業	496	545	49	9.9%
ケミカル事業	132	147	14	11.2%
営業利益又は営業損失	9	△ 0.4	△ 9	-
樹脂加工製品事業	1	△ 8	△ 9	-
ケミカル事業	9	9	0	3.9%
営業利益率(%)	1.5%	△0.1%	-	-
樹脂加工製品事業	0.2%	△1.6%	-	-
ケミカル事業	6.9%	6.5%	-	-

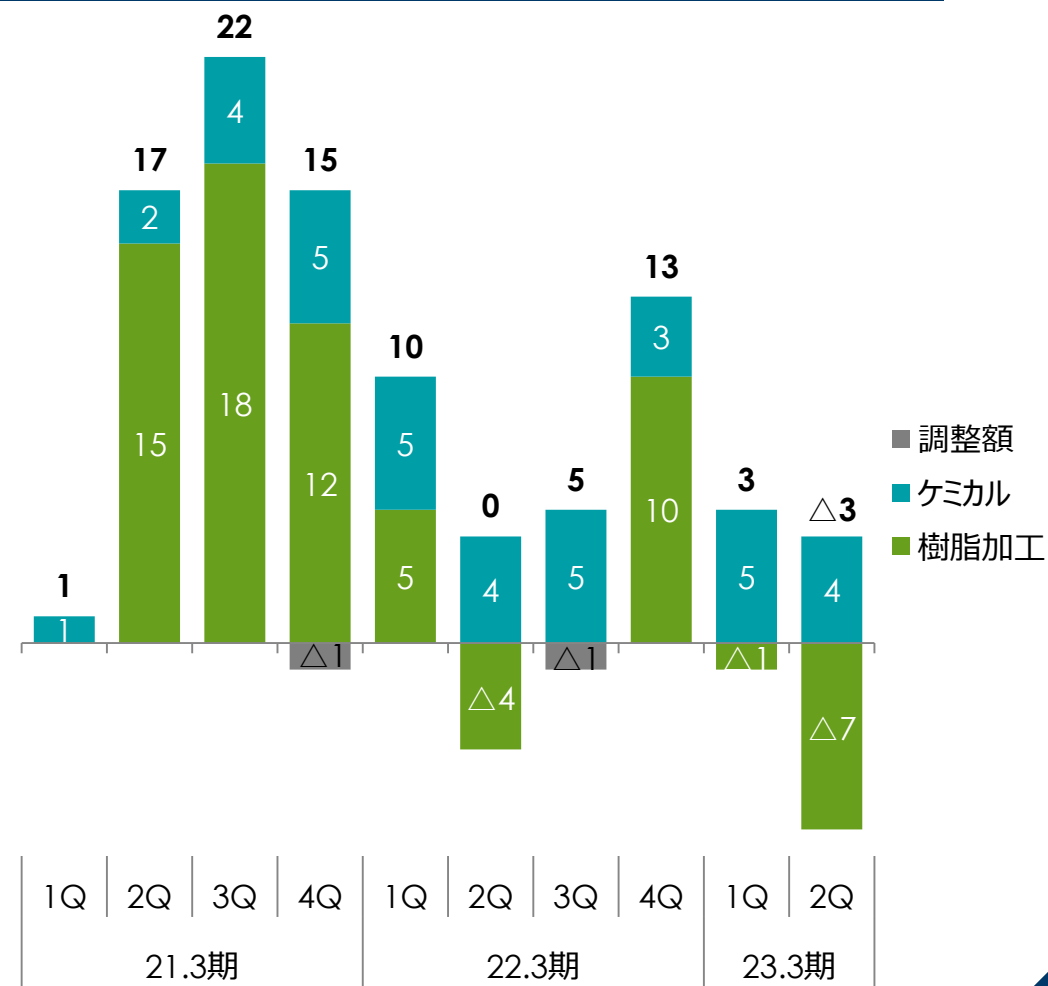
セグメント別・四半期推移

外部要因により樹脂加工製品事業が赤字も、ケミカル事業は売上・利益ともに安定

セグメント別・四半期売上高（億円）



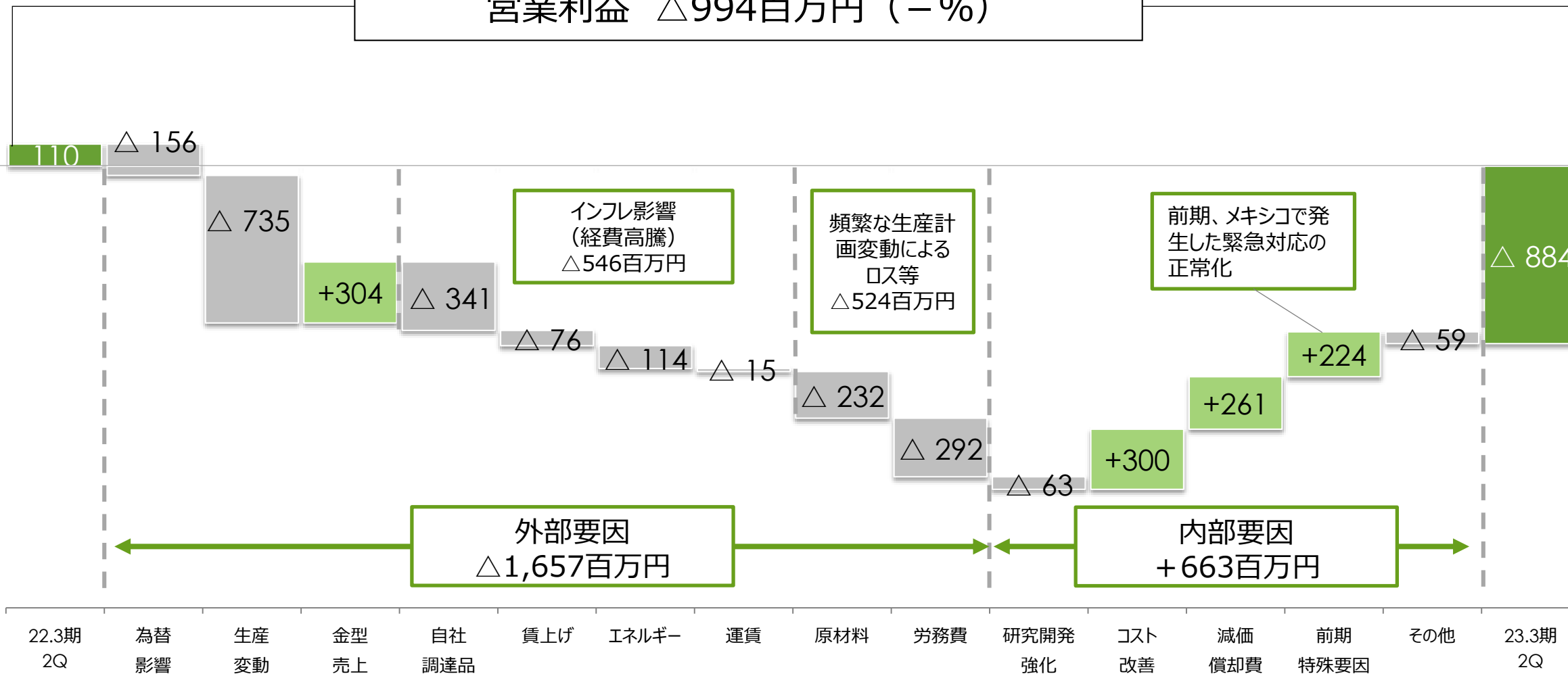
セグメント別・四半期営業利益（億円）



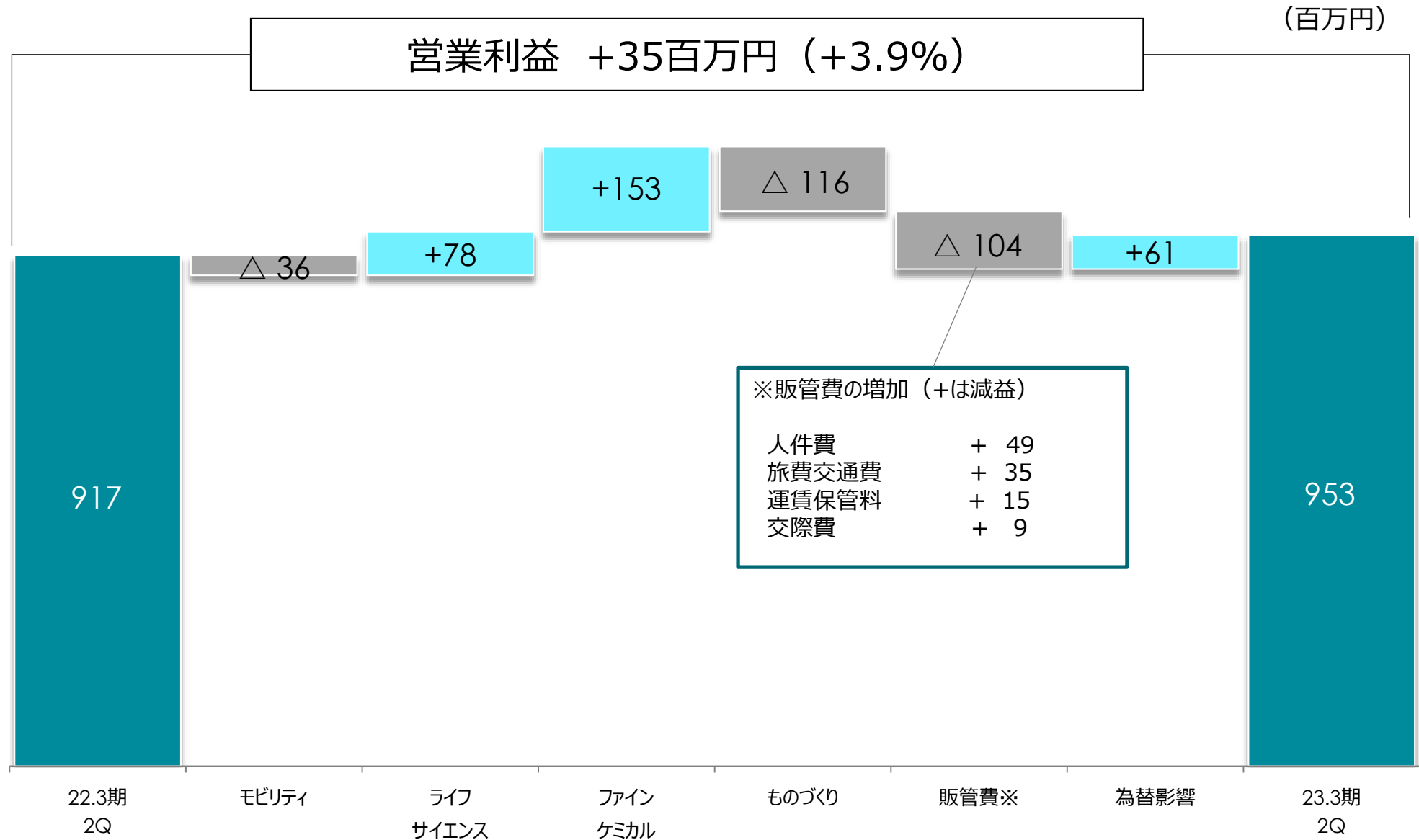
樹脂加工製品事業・営業利益 増減分析

(百万円)

営業利益 $\Delta 994$ 百万円 (-%)



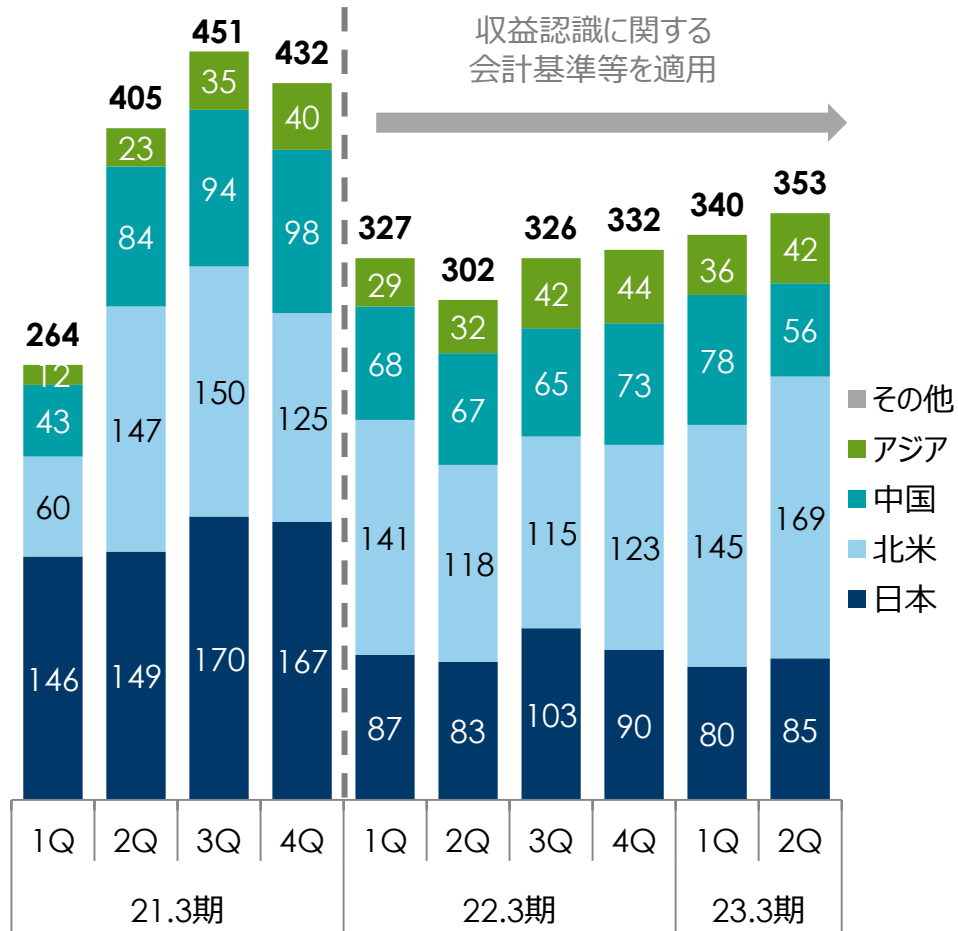
ケミカル事業・営業利益 増減分析



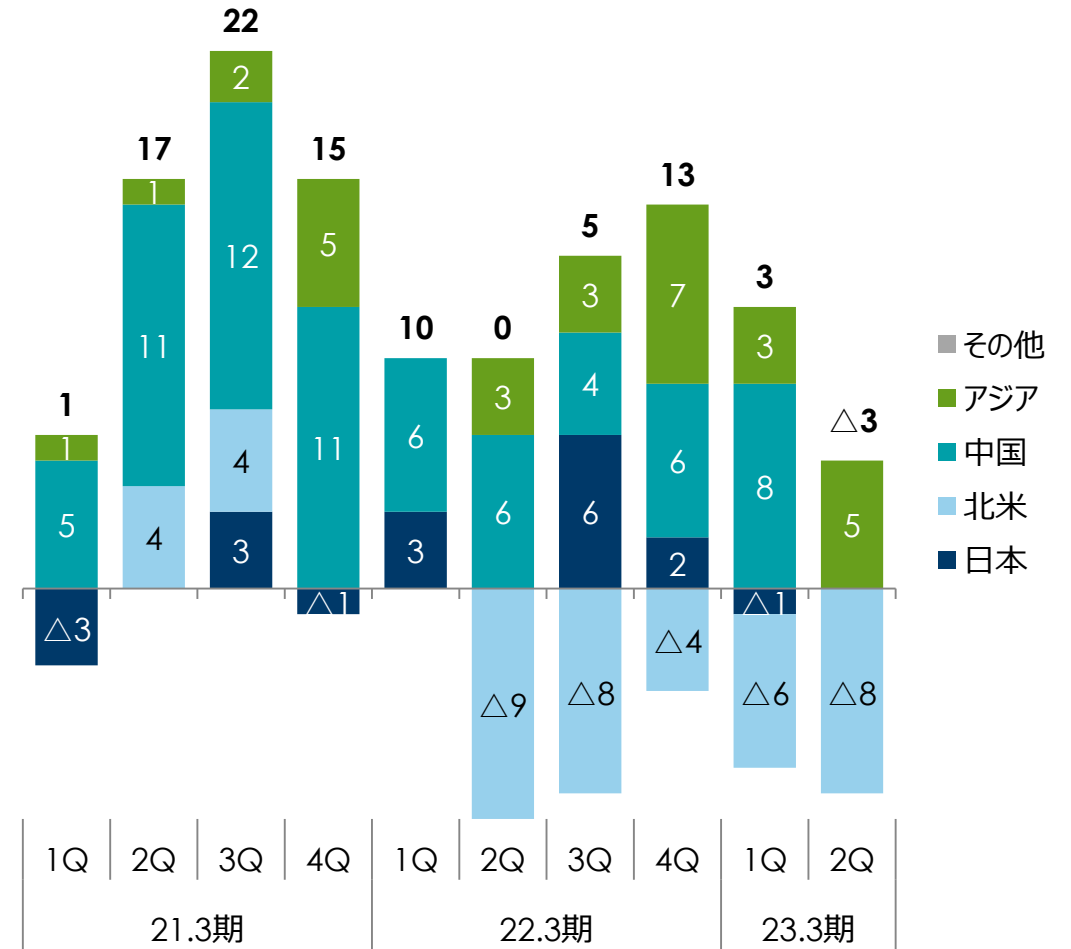
所在地別・四半期推移

北米：減産による生産効率の低下と、インフレ影響により収益悪化
 日本：生産が高グレードから低グレードへシフトし、付加価値率が低下
 中国：上海ロックダウンの影響が顕在化

所在地別・四半期売上高（億円）



所在地別・四半期営業利益（億円）



2023年3月期第2四半期 貸借対照表（概略）

為替換算の影響により、有形固定資産と短期借入金が増加

(億円)

	22.3期末	23.3期 2Q末	差額		22.3期末	23.3期 2Q末	差額
流動資産	770	780	10	流動負債	559	594	34
（現預金）	183	190	6	（買入債務）	246	244	△ 1
（売上債権）	347	356	8	（短期借入金）	225	268	43
（在庫）	185	179	△ 5	固定負債	90	91	0
固定資産	600	638	38	（長期借入金）	35	39	3
（有形固定資産）	446	490	44	負債合計	650	686	35
（投資有価証券）	118	113	△ 5				
				純資産合計	720	733	12
資産合計	1,371	1,419	48	負債純資産合計	1,371	1,419	48
				借入金	260	307	46
				自己資本比率	51.6%	50.8%	0.8pt

2023年3月期第2四半期 キャッシュ・フロー

設備投資の増加により、投資活動によるCFが△40億円となった結果、フリーCFは△9億円

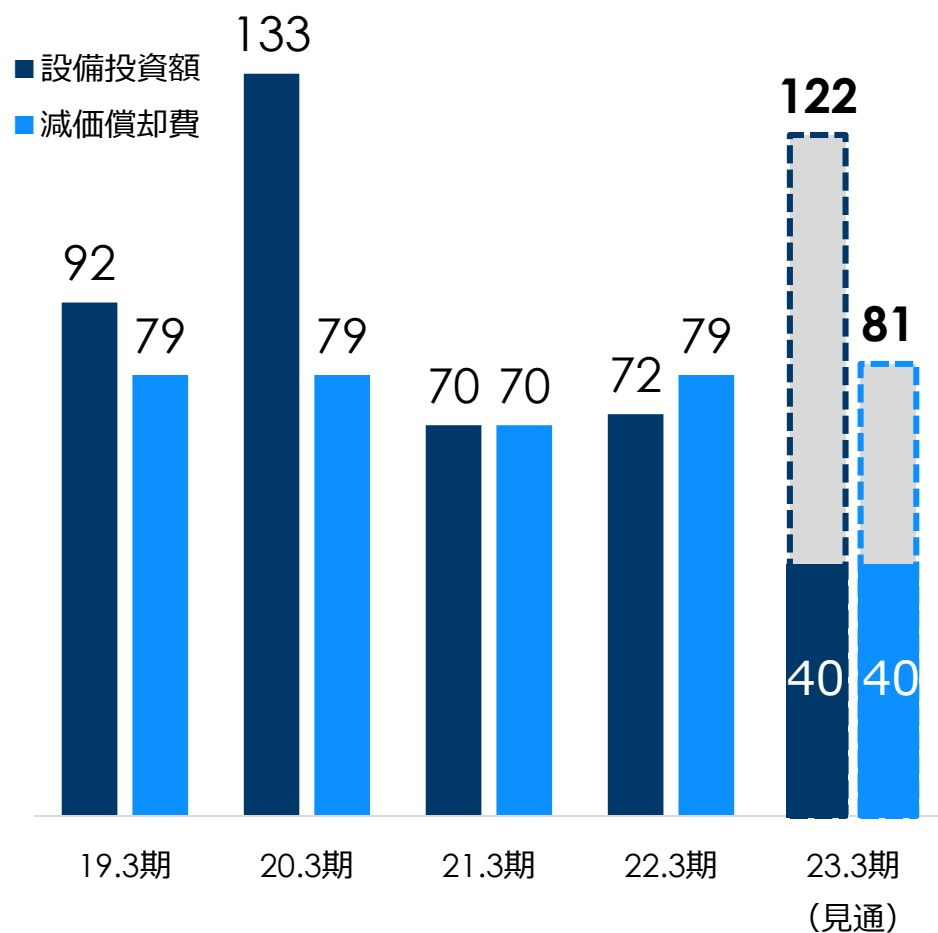
(億円)

	22.3期 2Q	23.3期 2Q	差額
営業活動によるキャッシュフロー	21	31	9
投資活動によるキャッシュフロー	6	△40	△46
フリーキャッシュフロー	27	△9	△37
財務活動によるキャッシュフロー	△5	5	11
現金及び現金同等物の増減額	26	6	△19
現金及び現金同等物期末残高	205	189	△15

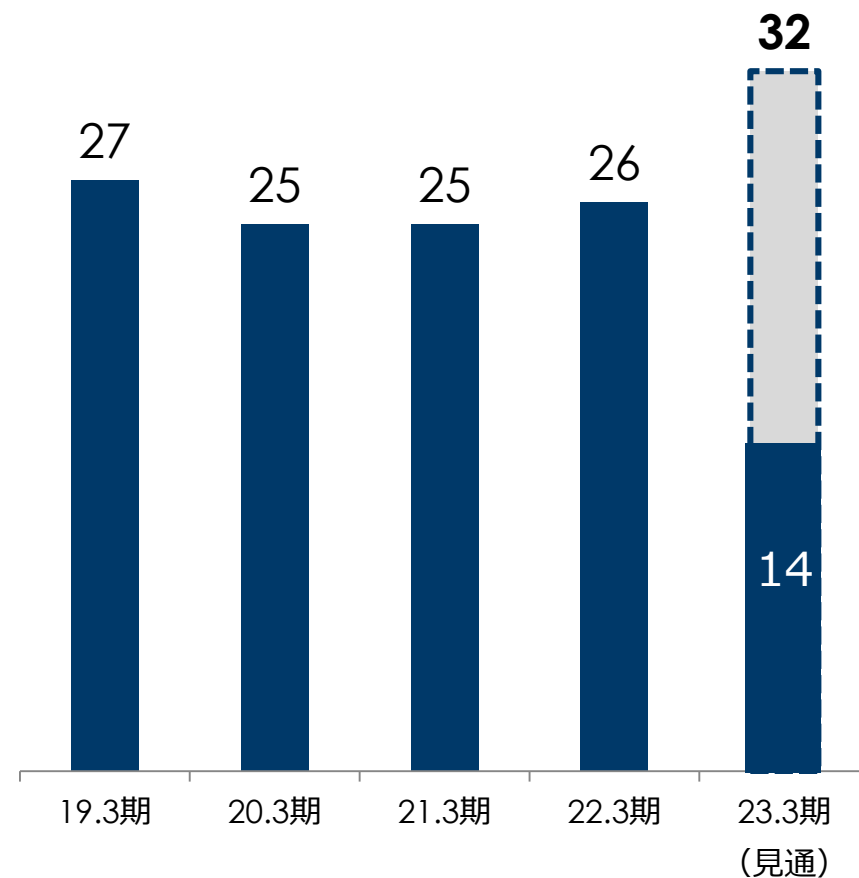
設備投資額・減価償却費および研究開発費

新機種立上げに加えて、第13次中計で掲げた環境対応やものづくり事業強化に向けた投資を実行

設備投資額・減価償却費(億円)



研究開発費(億円)





5. 2023年3月期 見通し

2023年3月期通期の見通し

前回見通し（2022年8月4日公表）を据え置き
販売価格の改善に加えて、北米の生産効率改善を見込む

（億円）

	22.3期 実績	23.3期 予想	増減額	増減率
売上高	1,288	1,410	121	9.4%
営業利益	28	30	1	5.4%
営業利益率	2.2%	2.1%	-	-
経常利益	29	30	0	1.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	42	16	△ 26	△62.0%
EPS(円)	258.92円	101.89円	△ 157.03	△60.6%
一株配当(円)	94.00円	100.00円	6.00	6.4%
為替 (USDドル)	112.4円	125.0円	12.6	11.2%
(中国元)	17.0円	18.4円	1.4	8.0%

2023年3月期通期 セグメント別の見通し

樹脂加工製品事業は、販売価格の改善に加えて、北米の生産効率改善を見込む
ケミカル事業は、化学品の需要好調が継続し、売上高と営業利益ともに堅調に推移する見通し

(億円)

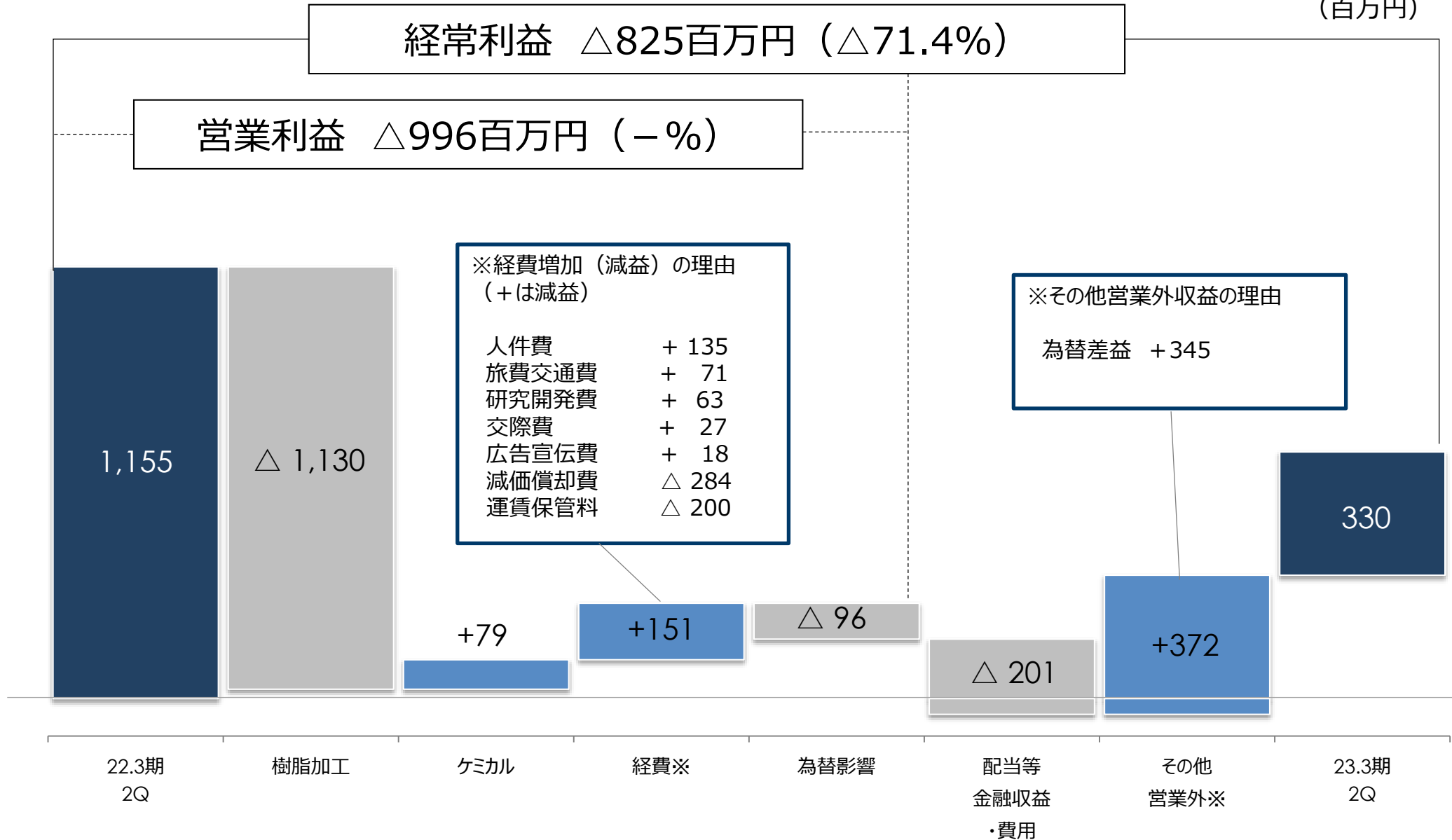
	22.3期 実績	23.3期		
		予想	増減額	増減率
売上高	1,288	1,410	121	9.4%
樹脂加工製品事業	1,017	1,110	92	9.1%
ケミカル事業	270	300	29	10.9%
営業利益	28	30	1	5.4%
樹脂加工製品事業	12	13	0	6.9%
ケミカル事業	18	19	0	3.5%



6. 參考資料

経常利益・営業利益 増減分析

(百万円)



2023年3月期第2四半期 所在地別売上高・営業利益

(億円)

	22.3期 2Q		23.3期 2Q		増減額	増減率
		構成比率		構成比率		
売上高 計	629	100.0%	693	100.0%	63	10.2%
日本	171	27.3%	165	23.8%	△ 6	△3.9%
北米	260	41.3%	314	45.3%	54	20.7%
中国	135	21.5%	135	19.5%	△0	△0.3%
アジア	62	9.9%	79	11.4%	17	27.4%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	16.0%
営業利益 計	9	100.0%	△ 0.4	-	△ 9	-
日本	3	38.8%	△ 1	-	△ 5	-
北米	△ 9	△104.0%	△ 14	-	△ 5	-
中国	13	139.1%	7	-	△ 5	△41.5%
アジア	3	39.7%	8	-	4	115.6%
その他	△0	△0.2%	0	-	0	-
調整額	△ 1	△13.4%	△0	-	1	-

【ご注意事項】

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。